

作品たち前で笑顔を見せる麗子さん



# 伝統的な着物の生地を 日本的なテーマで生かす



渡邊 <sup>れいこ</sup>麗子さん (70歳)  
城内在住

パッチワークキルト作家。自宅  
で数多くのキルト作品を制作  
している。金ケ崎町要害歴史  
館で案内人を務める。現在、北  
アルプス展望美術館で『幽玄』  
～秋田県西馬音内盆踊り～が  
YouTube 配信、東京美術館や  
国内外で『月光』～桜の花を詰  
め込んだ月が夜の海に浮かびま  
す～が展示されている。夫と二  
人暮らし。

色鮮やかで繊細な技巧が散りばめられ  
た作品は、見た人の心一瞬で惹きつける。  
そんなパッチワークキルトを作りづけて  
いる麗子さん。物心ついた時から着物や  
裁縫が好きで、気が付いたら作品制作を  
していたという。

パッチワーク基礎を習いたいと平成14  
年に日本手芸普及協会水沢協会に入会。  
平成22年には、縮緬などの絹の着物を  
使って制作し国内外で活躍しているキル  
ト作家の吉田サチ子先生に師事。パッチ  
ワークキルトの面白さや真髄に触れた。  
パッチワークキルトは大きく分けて

トップ（表地）・キルト綿（中綿）・裏打  
ち（裏地）の三層構造となっており、こ  
れら3枚を重ね、ズレないように一針一  
針縫い合わせる作業を「キルティング」  
と呼ぶ。一針一針丁寧に手がけられ、代  
表作である『ぶどうのリース』や『ふる  
さの歌舞伎人形』は制作に2年以上を  
費やした。麗子さんの作品は世界中で公  
開され、東京国際キルトフェスティバル  
日本キルト大賞和のキルト部門第3位と  
なった『いろは紅葉』のほか、国際的な  
賞を数多く受賞。作品が海外展示にな  
ると、1年半以上手元に戻ってこないこ  
もあり、町内で展示されると貴重な作品  
を見ようと町内外から多くの観覧者が訪  
れる。

「昔は日常的に着物に触れる機会や編  
み物をする人たちが多かった。好きこそ  
ものの上手なれという思いで、作品を仕  
上げていく」と感慨深く話す。  
現在も新作を手がけており、麗子さん  
の制作への情熱は衰えない。

パッチワークキルト・・・「布を合わせて、縫って、つなぐ」工程を経て作られる温もりのある手芸作品

人口と世帯		3月31日現在	
		※( )内は前月比	
人口	14,999人	(△ 36)	
男	7,780人	(+ 10)	
女	7,219人	(△ 46)	
世帯数	6,715世帯	(+ 59)	

## ◆金ケ崎町公式情報アプリ 「かねがさきInfo」



Android用



iPhone用

## 広報日記

今年度で3年目の担当となり  
ます。よろしくお願ひいたしま  
す。(千葉)

